

瓦版

vol.46

お知らせ
40代からの子育て
雑感
新入社員紹介
感懐

シンク下、天袋のお手入れ法
思文閣美術館一裂織展（そのルーツと未来）

近庄グループ
株式会社 山庄



http://www.yamasyo.net



— お知らせ —

山庄事務所改装工事「スペースセラピー」完成しました!!

Vol. 43にてご紹介させて頂きました当社の新企画商品「スペースセラピー」のモデルがやっと完成いたしました。

詳細はVol. 43 をお読み頂きたいのですが、スペースセラピーとは社内にエネルギーの漲る空間（パワーゾーン）を構築することで、社長をはじめ全社員さんが、生き生きとエネルギーに活動でき、至っては会社の成長発展に貢献しようという空間創造です。

今までのデザイン重視、機能性重視の空間作りではなく、全く違う視点から空間を追求していきます。会社の理念や目標、創業の想いなど、一言では言い表せない想い。紙に書いて額に入れて、皆で唱和していてもなかなか伝わらない想い。しかしこの想いを伝えないとこの会社の意味がないという部分。伝える先は社員さんであり、お客様であり、関わる人全てに。そしてこの想いが毎日伝えられたなら、社員さんはどれだけ生き生きと前向きに活動してくれるであろう。そんな深い想いを専門カウンセラーによるカウンセリング、デザイナーによるインタビューを経て、クライアントの意識の奥底にまでアプローチし、真に求めている空間を具現化していきます。

まずは弊社をモデルとしました。弊社の理念は「我社は空間創造を通して、まごころを提供し、お客様の喜びをわが喜びとする企業である」です。簡単に言うと「まごころの提供と喜びの共感」です。社長、専務を中心にカウンセリングを進めていくうちに気付いた事。簡潔に表現しますと、それは「お金で動機付かない会社」「規模で動機付かない会社」という事でした。弊社の一番動機付く環境とは、「お客様の喜んでくれる顔」「取引業者様の喜んでくれる顔」「社員さんの喜んでくれる顔」そんな顔を見たいという想いが会社のエネルギー源であったのです。（簡単なようで驚きの一瞬です）そして出来上がったプランをみて驚き納得です。スペースセラピースタッフの能力の高さにも納得です。

読者の皆様、弊社のエネルギーを体感し是非一度事務所までおいでください。お待ちいたしております。

「スペースセラピー」という組織は山庄のスタッフをはじめ、カウンセラー、デザイナーと精鋭によって構成された独立組織です。

きっと皆様のお役に立てるものと確信いたしております。ご希望の方にはパンフレットをお届けさせていただきます。

TEL、FAX、メールいずれからでもご請求ください。どうぞよろしくお願い致します。

k-miyagawa@yamasyo.net

宮川 浩一



希望のお客様は!!

デザイン無料キャンペーン及び設計・現地見学会 ご希望の方は下記アンケートにお答え頂いた上、FAXにてご返送下さい。

氏名: _____

住所: _____

TEL: _____

FAX: _____

ご希望の内容

- ①設計・デザイン無料キャンペーン
- ②新築物件現地見学会

 **株式会社 山庄**
TEL:075-813-5800(代)
FAX:075-811-5550

40代からの 子育て 山内 早苗

「忘れ物ない？」と私。「うん、大丈夫。今日はどこで待っててくれる？」と娘。「北大路にするわ。」と私が言い終る前に気が逸るのか、もう玄関からは娘の背中にあるランドセルしか見えない。いつも学校まで送っている主人も慌てて娘を追いかけつけている。8月27日夏休みが終わり早くも学校が始まった。結局昨日までかかった宿題やお道具箱の入った大きな袋を抱え、元氣よく出て行った。

「彩のノートを見て先生が、すごいなって褒めてくれたはった。」汗だくの娘が学校からの帰り道嬉しそうに話す。分厚いノートの最後のページには、赤いマジックで感想と共に、このノートは彩さんの宝物ですね。大切にしてください。と担任からのメッセージが記されていた。「頑張ったもんね。」と褒めると「うん、お兄ちゃん一杯写真撮ったもん。」得意げに娘が言う。

夏休みを利用して、息子の居るイギリスに家族で出かけた。10日間の日程で最初の3日間は、週末の土曜日にいつも息子が参加しているサッカーチームの練習があり、丁度試合をするというので三人で観戦に出かけた。

翌日からは息子も合流して共に世界遺産であるフランスのモン・サン・ミッシェルを見にユーロスターに乗りフランスへ渡った。3日間の滞在で、一度ロンドンへ戻りレンタカーを借りてそのまま今度は息子が5年間の中学・高校生活を送ったバンブリーという街に向かい3日間を過ごし、最後の3日間はロンドンに戻るという結構ハードなスケジュールであった。

初日、ヒースローに運転手さんのジョンと共に迎えに来てくれた息子は、3週間前に日本に戻っていた時よりスマートに見える。「上げ膳据え膳の日本での生活が夢のよう。」と何時も言っていたが、卒論に追われ時間のない中で自炊生活はきつくだらうな一と少し不憫に思えた。

早速ここ数年主人が気に入っているランガムホテルに向かう。ホテルの地下には重厚な外見からは想像できない程近代的な造りのスパやプールがあり、5階からは顧客専用のクラブラウンジになっていて、朝食はじめいつでもゆったりと寛げるラウンジには日本の新聞があり、4人のコンシェルジェのなかに日本人が一人いて、英語の苦手な私にとっても過ごしやすいホテルである。息子が「高級やからあまり行けない。」と言う中華料理屋で夕食を終え、時差ぼけで3時過ぎまでグズグズと起きている娘を寝かしつけ長い一日を終えた。

翌日からは息子の下宿に行き、常々息子との電話での会話に出てくる人物や場所を訪ねた。ティーは息子行きつけの近くの小さなスーパーの息子で、夜間の外出や日常の困りごとなどに力になってくれる一人。特にこの地域はベトナム人が多くティーの店に

も、風邪や食欲不振になった時必ず息子が食べる土しょうがや豆腐があるので、アジア人には生活し易い場所であり、学生や芸術家も多いのでおしゃべりな個展はピカデリーのような中心地ではなく、下宿近くの画廊で開かれる事も多い。

早速日本からお土産に持参した一保堂の宇治清水を渡すと、「ありがとう。」とティーが息子に習ったという日本語で言ってくれた。

お昼は近くのパブに行く。雑誌にもよく載るといこの店は、ビールの種類が豊富で「ママきっと好きやで。」と息子がセレクトしてくれたフルーツビールは本当に美味しかった。パブにはそれぞれにオリジナル料理があるらしく、これがまた美味しく気がつけばもう3時間近くになる。いつもは退屈で「どっか行こう。」と言う娘も、何度も家に泊まりに来てくれて何時も楽しく遊んでくれるK君が一緒なので、ご機嫌にテラスを走り廻っている。

土曜日には下宿近くのリージェントパークにサッカーを見に行った。「ロンドン人は人も車も多すぎてストレスたまわるわ。」と何時も言う息子の息抜きが、この週に一度のサッカーである。広い公園だとは聞いていたけれど「あそこに見えてる建物がレストランやからそこで見てたら。」指差された建物までは2km位はある。広大な敷地の中では何組ものチームが其々にプレーを楽しんでいる。

ロンドン在住の日本人ばかりで構成されたこのチームは学生から医師まで職種も多彩。ただ歴史は古く本格的な練習で遠征試合もこなす。息子の友人で共に参加してい

るS君は、日本では幼い頃よりサッカーの西日本代表で、高校からイタリアにサッカー留学をしていたという実力の持ち主。

「あいつサッカーになったら人が変わったみたいに燃えよるわ。」と息子が言う。

木陰とはいえ日差しがきつく、隣にある動物園に行こうと場所を離れたが、娘は来る道沿いにあった公園が気がかりで、結局息子のサッカーが終わる5時近くまでその公園で遊んだ。

息子が行きたがっていたロンドンで一番古いローストビーフの店にも、息子のルームメイトのK君・R君と共に出掛けた。久しぶりに見る息子達の正装姿はもう立派な大人の感じがした。

「どうしても彩の大好きなラピュタのモデルになったモン・サン・ミッシェルを見せてやりたい。」と言う息子の一言から、フランスにも行った。レンヌという田舎町で早朝に立ち寄ったパン屋で買ったクロワッサンの美味しかった事。息子が過ごしたバンブリーの町。訪ねるたびに三人で食事をした中華料理店。日本を思い寂しくなると絵を描いていた学校の美術塔。先輩達にいつも先を越され日本への電話が出来ず、泣きながら夜の校庭を駆け抜けて電話をしてきた道路脇の公衆電話。運転に疲れた主人が一日寝て過ごした日、雨降りの中散歩に出た娘も寝息を立てている。息子と二人ホテルのパブでビールを飲みながら長い時間いろいろ話をした。

娘がまとめた一冊のノートからは写真と共に旅の思い出が蘇ってくる。

★ アンケートにお答えいただいた方には、この情報誌を毎月郵送致します。

氏名 _____

性別 _____

生年月日 _____

住所 _____

TEL _____

FAX _____

メールアドレス _____

職業 _____

★ 今後、あなたの知り得たい情報は何ですか？

- 1.建築(住宅)に関する情報
- 2.建築(インテリアデザイン)に関する情報
- 3.外食に関する情報
 - ・和食
 - ・洋食
 - ・中華
 - ・その他()
- 4.文化、歴史に関する情報
- 5.その他

()

 **株式会社 山庄**
TEL:075-813-5800(代)
FAX:075-811-5550



瓦版

企画及び発行所

近庄グループ
株式会社 山庄

〒604-8811

京都市中京区壬生賀陽御所町77-1 山庄ビル2F

TEL 075-813-5800

FAX 075-811-5550

E-mail office@yamasyo.net

URL http://www.yamasyo.net

